

(対象：資料番号 1 プラン素案 p 81 概念図)

1. 「基本構造」の下に「生活する「人」をつくる」とありますが、わかりにくいかもしれないため、書くとすれば、例えば「心優しい「人」をつくる」の方が良いかもしれません。又は書かないことでも良いかもしれません。
2. 医療・住まい・介護・介護予防・生活支援の5本柱を立ててありますが、例えば「住まい」のところに「居住支援協議会」とあり、これは符合しますが、その下の出張所、福祉部局、警察消防も住まいの支援の一環のように誤解される印象があります。このため5本柱と例示されている事業などに連動関係が想起されないようなデザインにした方が良くもありません。
3. グレーの三角形（のような）ところで、「地域づくり」と「参加支援」が別建てで表記されていますが、地域づくりには参加が必須ですので一体と考えると、両者が独立した別個のものという印象ではないデザインの方が良いかもしれません。
4. 「社会福祉協議会」には、例えば「インフォーマルサポートのプラットフォーム」のような機能があるのであれば明示した方が良くもありません。ただし、地域福祉計画で社協をどのように位置づけているかに関連いたします。
5. 「地域住民」とありますが、例えば、ボランティア団体、地域団体、認知症サポーター、シニアクラブなどのインフォーマルサポートを構成し支えるのが「地域住民」であり地域住民は全体にかかるものと考えられますから、そのようにデザインするか、又は「地域住民」は削除した方が良くもありません。（フォーマルサービスは基盤が行政で、インフォーマルサポートの基盤は住民という関係をうまく表すことができればと思います。）
6. 地域福祉計画との関係は「調和をもって策定」ですから、その相互関係がわかりやすいデザインの方が良くもありません。

(対象：資料番号 1 プラン素案 p 83 体系図)

基本目標 3 は「住み慣れた地域で自身の尊厳を保ちながら暮らせるまち」ですが、その「施策 6, 7, 8」は住まい確保・災害時体制・権利擁護ですから、むしろ「尊厳」は、基本目標 4 に移した方が的確かもしれません。

「尊厳」の基は「自尊・他尊」という人と人とのつながりであり「あなたは私にとって必要で大事な人です、と区民同士が互いに認め合う（他尊）ことによって、皆がプライドを持つ（自尊）という関係で成立しますから、

例えば、基本目標 3 は、「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」として、「施策 10 の「見守り体制」をここに移した方が良いかもしれません。「施策の方向性」の「住まいに伴う生活支援」の趣旨に符合します。

そのうえで、基本目標 4 を、「思いやりの気持ちで互いに助け合い尊厳をもって暮らせるまち」とするのが良いかもしれません。

以上